

五四 江戸通泰書狀寫

謹上 吉田別當

江戸

御同宿中

藤原通泰

追啓

後日之義、翻寶印、以神名可申定候、爰元之義不可有御疑心候、

重而恐と

急度啓進、抑今般於吉田山不慮之儀、單其様御不運、於通泰も不吉

之由存、迷惑何事坎可過之候哉、然者就之御出歩御十分至極候、雖

〔貴力〕

然彼仁無覺悟無余義候之上、任口意身命不單相助候、不私題目候間、

御門徒中へ有御披露、於其上早と御帰寺可畏入候、何様依彼御返答

中途へ可罷出候、先以使如此申宣候、恐と敬白

十月九日

(江戸)

藤原通泰(花押影)

謹上

吉田別當御同宿中

#### 五四 江戸通泰書狀寫

謹上 吉田別當 江戸  
御同宿中 藤原通泰  
追啓

後日之義、翻寶印、以神名可申定候、爰元之義不可有御疑心候、  
重而恐々

急度啓進、抑今般於吉田山不慮之儀、單其様御不運、於通泰も不吉  
之由存、迷惑何事坎可過之候哉、然者就之御出歩御十分至極候、雖  
然彼仁無覺悟無余義候之上、任口意身命不單相助候、不私題目候間、  
御門徒中へ有御披露、於其上早々御歸寺可畏入候、何様依彼御返答  
中途へ可罷出候、先以使如此申宣候、恐々敬白

十月九日

藤原通泰(花押影)

謹上 吉田別當御同宿中

## 分析

なお、原文は「茨城県史料 中世編 II」による。

原文	現代かなづかい風の表記	意味、コメント
五四 江戸通泰書状寫	江戸通泰書状写し	
謹上 吉田別當 御同宿中 藤原通泰		
【ここから追っ手書き】		
追啓		
後日之義、翻寶印、以神名可申定候、	後日の義、宝印を翻(ひるがえ)し、 神名をもって申し定むべく候	後日の義……今後の事について、ということか 宝印を翻し……起請文を書くこと。牛玉宝印(ごおうほういん)という護符の裏に誓約の文章を書くしきたりがある(*1)。つまり、此の書状は誓約書の性格を持つ。 神名をもって申し定む……神に誓って申し定める、破ることがあれば神の罰が下ることになる、と宣言している
爰元之義不可有御疑心候、	ここもとの義、御疑心あるべからず候	当方に対しては、お疑いのないように、ということか。 ・爰元……ここもと、としたが、通常"ここもと"は、此処許とか爰許と書く。
重而恐と	重ねて恐々	
【ここから本文】		
急度啓進	きっと啓進	急度(きっと)……急ぎ
抑今般於吉田山不慮之儀、單其様御不運、於通泰も不吉之由存、	そもそも今般の吉田山における不慮の事、ひとえにそのさま御不運、通泰に於いても不吉の由に存ず	そもそも今般の吉田山における不慮(火災)の事、その様子はひとえに御不運であり、通泰に於いても不吉であります
迷惑何事坎可過之候哉、	迷惑何事かこれに過ぐべく候か	迷惑なこと、これ以上のことはありません ・「不慮之儀」、「御不運」とあり、ここで、「迷惑」とある。吉田山に

		ついでであるから、本堂が火災になった事に触れているのであり、この表現からは、火災の原因が戦(いくさ)とか、意図した放火などではなく、広い意味での失火の様に感じられる。たとえば、寺内での失火、近家からの類焼、野火の延焼、あるいは落雷などである。
然者就之御出歩御十分至極候、	然ればこれについての出歩きは十分しごくに候	「出歩」の意味が分らない。この文以降は意味が取れない。50番の文書(掟写し)にも、「御造営の間、御出であるまじきこと」とある。
雖然彼仁無覺悟無余義候之上、任口意身命不羣相助候、	しかれども、かの仁に覺悟なく余義なく候の上は、貴意に任せ、身命に及ばず相助け候	「彼仁」が誰を指すのか不明で、この文章は分らない。 ・身命に及ばず相助け候……身体、生命をかけてもお助けします
不私題目候間、御門徒中へ有御披露、	わたくしせざる題目に候間、御門徒中へ御披露あれ、	個人にかぎってはならない事柄なので、門徒の方々へも御披露願いたく
於其上早と御帰寺可畏入候、	其の上に於いては、早々の御帰寺おそれ入るべきに候	其の上、早々の寺への御帰り、恐縮に存じます
何様依彼御返答中途へ可罷出候、	いかさまのかの御返答に依りては、中途へ罷り出づべく候	返事の内容に依っては、途中まで(私が)出てまいりましょう
先以使如此申宣候、	まずもって、かくのごとく申しのべせしめ候、	(使者をつかわして)上記の様に申し述べさせます、というニュアンスか。
恐と敬白	(決まり文句)	
十月九日 藤原通泰(花押影)		・年の記載がない。念を推定する手掛かりは特に見当たらない。
謹上 吉田別當御同宿中	謹上 吉田別當御同宿中	謹んで申し上げる。吉田別當様ならびに寺住みの方々へ ・同宿……同じところに住んでいる人 ・中……複数の人々(複数)を尊敬するという言葉

(\*1) 長尾為景起請文 中条家文書データベース 山形大学 <http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/mainlib/rarebooks/nakajo/nakalink.php?key=227>